

2016 年 9 月 30 日

小学校
校長 様

年保護者
年保護者
年保護者
年保護者

「放射能線出前授業」中止についての要望書

放射能や放射線についての正しい知識を子どもたちに伝え、これからのエネルギー問題について考える力を養うための教育をして頂きたく、下記のとおり要望いたします。

1. 要望の趣旨

一般社団法人エネルギー・環境理科教育推進研究所（以下、「エネ理研」とします。）が実施する放射線や放射能に関する出前授業は、一方的に現在の原子力発電を安全であると断定するような内容です。小学校は、適切な情報および教育の提供をすべき公的な教育機関です。その小学校（以下、「」とします。）および他の堺市立小学校において、このような授業が実施されたことに対して強く抗議し、その中止を要望いたします。

小学校で行われたエネ理研による「放射線授業」（2016 年 9 月 日）を参観しました。この授業は、最初に福島原発事故によって放出された「人工核種」を取り上げておきながら、放射能の安全性を「自然核種」にすり替えて話しするなど、情報操作や一定の結論への誘導とも捉えることのできる内容でした。また、あたかも子どもたち自身が自分で考えて答えを出したかのようにする洗脳性すら感じられました。このような授業によって誤った情報を学び、とくに、今後ますます重要となるエネルギー問題について考える力が身につかないことについて、強い憤りを感じます。わが子を思う気持ちに加え、これからの社会を築いていく子どもたちを案じ、このような授業が行われたことに対して抗議を行い、今後このような授業が行われないように要望しなければならぬと考えるに至りました。

今日の一般的な科学研究の成果のみならず、福島第一原子力発電所の事故による甚大な被害を踏まえた科学的知見に基づいて、正しい知識を子どもたちに教えていただきたいと切に願います。

*授業内容の問題点は別紙「放射線出前授業」の問題点」をご参照ください。

2. 要望の内容

- (1) 子どもに偏った放射線・放射能に関する知識を植え付け、保護者にも不安を与える、エネ理研による「放射線出前授業」を、今後、実施しないでください。
- (2) 放射線や放射能についての正しい知識を、まずは教師が身につけてください。その上で、今後の暮らしの安全やエネルギー問題を考える視点から、子どもたちの未来を守ろうという意思のもとで、改めて授業をやり直してください。
- (3) 2016 年 10 月末を目処に、本要望への対応について、文書にて提示してください。

以上

「放射線出前授業」の問題点

「放射線出前授業」では、1限分の45分間全ての時間を用いて放射能安全説が説かれました。とりわけて、チャイムがなってからの3分ほどのみで、子どもたちに危険性や自己判断の必要性を迫り、講師が走って話をして授業を終了とする構成でした。科学研究の知見から問題とされる情報の提示や、考え・意見の誘導など、公立小学校で実施されることに大変問題のある授業だといえます。下記に、その具体例を提示いたします。

問題点の提示：

配布されたアンケート「放射線について学ぼう」

エネ理研の計画がそのまま示されており、言葉では「自分で考え答えを出しなさい」と言っておきながら、子どもたちを一方向に導くという企みが表されています。

その理由を以下にまとめます。

「放射線」のイメージを発言させましたが明らかに誘導質問を感じさせました。

「福島、原発、怖い」などのマイナスイメージを思い浮かばせ、子どもたちに回答させる。
(それが出てくるまで答えさせた)

↓

自らの実験によって放射能への恐怖感を無くさせる（自然核種の安全性）

↓

プロジェクターでは原子力の便利さを教える（人工核種の利便性）

↓

アンケートの最後には「どのようなエネルギーを使うとよいですか」とありますが、この流れでは「正しい知識を持って利用すれば原子力発電が一番効率的だと思う」にしか行き着かないと感じます。

今年度から日本でも電力会社を選択できるようになり、意識のある人たちは自然エネルギーに変換し始めています。

COP21 パリ協定により加盟国はCO2排出の大幅な削減を目指しています。

大阪では泉佐野市が地域電力会社を設立し、現在の公共施設の利用から市民への供給へ広げようとしています。

そのような現実があるのにも関わらずエネ理研の中学校向けの出前授業では「自然エネルギーは広大な施設が必要」「日本の受給率の低さ」などを掲げ、口では「原発は安全だ」とは言わなくともそう受け取らざるを得ない授業を行っています。

① カリウム肥料、塩で線量計が反応することを確認

「みんなは、これを食物を通じて体内に取り入れているよかったね（笑）あ、そんなこといっちゃだめか（笑）」（エネ理研・宇田氏の9月26日の授業での発言。以下同じ）

太陽、飛行機乗車時、レントゲンからも放射能が出ているが人間の体に影響はないと話す。

秋田の温泉からはラドンが出ているし、私がつけているストーンブレスレットからはラジウムが出ていて健康に良い。

そもそも今回の話や実験は自然界に存在する「自然核種」の話であり、核爆発による「人工核種」とは全く別物です。

自然核種の代表が前出の「カリウム 40」です。

人工核種でチェルノブイリ事故、福島事故では「セシウム 134」「セシウム 137」が放出されました。

現在は半減期 30 年の「セシウム 137」の危険性が懸念されています。

温泉から放出されるラジウムやラドンもセシウムやストロンチウムとは違い α 線です。

ラジウムが体に良いとされる「放射性ホルミシス説」は放射線影響研究所では否定されています。

② 「レントゲンは毎日受けてはいけません。ある程度間隔をあけます」「一年間で受けていいと考えられているのは1ミリシーベルト。みなさんの手に持っている線量計の単位は『マイクロシーベルト』。ほんのわずかな数値です」（宇田氏）。

これは外部被曝の例であり、汚染された食物を体内に取り入れた時に起こりうる内部被曝は粘膜やDNAを壊すため特に子どもは体内影響が出やすいと理解されています。

セシウムだけでなく、検査されていないストロンチウムは魚の骨などに蓄積し、体内に摂取した際には骨に蓄積します。半減期は約28年と言われています。

「実は身の周りにたくさんの放射線がとんでいる。でも、どう？放射線って痛いわけでもないし、当たり前のように生活できるし、ね、そうだよね」（宇田氏）。

「自分で考え、自分で実験して、自分で結論を出す」のがエネ理研のモットーだそうですが授業内にこのような誘導的な言葉がたくさん使用されていました。

③ 「放射線は、鉄とコンクリートは通さない。もし関西の原発が爆発したらどこに逃げれば良い？」（宇田氏）→子どもたち、担任教師が「学校」と答える「そう、学校。コンクリートですね」（宇田氏）。

今までの授業で教室での放射線の存在を確認した後に、学校は放射能を通さないから安全だと、もう支離滅裂です。

④ 「科学技術の一つとして利用してます高性能タイヤ製造、ジャガイモ発芽防止など」（宇田氏）。

これは「人工核種」です。カリウムとは別物です。

現実にはタイヤの廃棄問題があり、食物照射はヨーロッパでは全面禁止とされています。

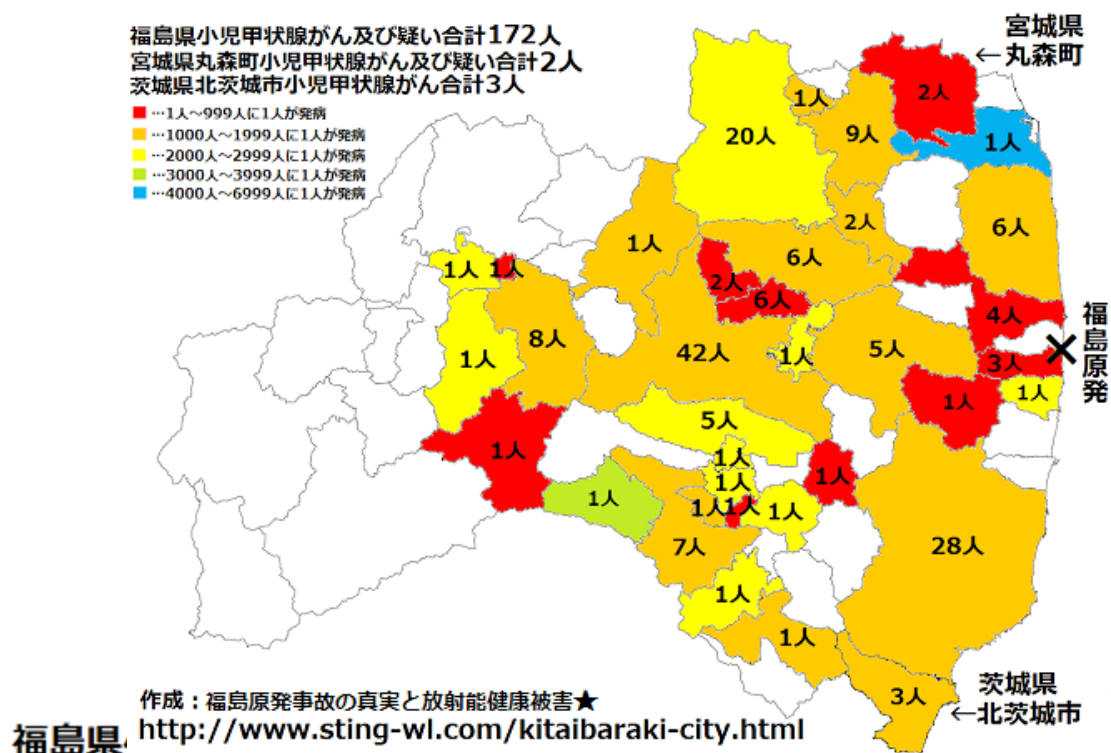
⑤ 「放射能による影響ははっきりとしていない」(宇田氏)

一番新しい情報です。

2016年9月14日公表(福島県民調査報告書) 福島の小児甲状腺がん及び疑いの子どもたちは前回(3ヶ月前)から再び2人増加、計174人になりました。

小児甲状腺がんは年間1人発症でも多すぎるのにこれほど発症しています。

チェルノブイリ事故より子どもの発症率が少ない為、福島原発とは関係無いと唱えた医師がいましたが、当時ウクライナは春で外出が少なく、事故が知らされていなかったこと、福島は3月で室内にいた人が多く、事故も知らされたために室内で避難していたなどのからくりがあります。



甲状腺癌及び疑い					
175人					
先行検査			本格検査		
116人			59人		
手術前	手術後		手術前	手術後	
14人	102人		25人	34人	
	乳頭癌	低分化癌		乳頭癌	低分化癌
	100人	1人		33人	0人
	その他の癌	良性結節		その他の癌	良性結節
	0人	1人		1人	0人

以上、全てではありませんが、目立った箇所を取り上げました。

最後に、私たちの思いを述べさせて下さい。環境問題や高齢化社会、経済的・社会的治安の不安などあるなかで、私たち親は、これからの時代を生きる子どもたちを守るために、新聞を読んで学び、環境を考え、毎日の食生活にも気を配っています。中でもエネルギー問題は重要で、原子力発電所が有する放射能やそれがもたらす放射線による健康被害は、福島における事故が現在も人々を苦しめている現状からも明らかなように、深刻で、最も心配する問題です。

はっきりとした科学的立証がなされておらずとも、少しでも危険の可能性がある事柄には、自動車教習所で何度も事故映像を見せられるように、「もしも」を第一に、危険回避を念頭に意識するのが、現代社会における「常識」ではないのでしょうか。

小学校でこの度実施された出前授業のように、軽々しく偏った学びを一方的に行い、それに対して校長先生をはじめ、担任の先生までもが疑問も持たないようでは、私たち保護者の、学校や先生方への信頼は薄れていく一方です。文部科学省推奨の授業から選択するということなので安心されたのでしょうか。文部科学省はもんじゅ廃炉に最後まで抵抗している省であることをご存知なののでしょうか。

ほかにも出前授業には、営利企業が入っているようです。自然に考えると、自分たちの都合の良い結果となるような授業を進める危険性を拭えないと思われます。

先生方が、日々の教育の現場で真剣に子どもたちと向き合い、子どもたちの将来を考えてくださっていると理解しています。放射線についてのこのような出前授業の実施も、先生方が放射線に関する正確な知識を身につけた上で判断されていたのでしたら別の話ですが、今回の授業を参観した限りそれは見受けられませんでした。これまでの日本の歴史からも、教育とは何かをしっかりと考えてください。私たちが大切に育てている子どもたちを教育することに対して、しっかりと責任を持っていただきたいと心から願います。そのために、私たち保護者は、積極的にお手伝いをさせていただきたいと考えています。

以 上